



木山小学校だより

<教育目標> やさしく かしこく たくましく

そま ひと
山人

第4号 令和7年6月27日

新潟市立木山小学校
〒950-2252 新潟市西区谷内1886番地
TEL. 025-239-2044 FAX. 025-239-3807

いざというときへの「備え」 ～「木山防災デー」の取組から～

校長 寺田 武文



6月7日(土)、「木山防災デー」として、今年も保護者、地域の皆様と合同防災訓練を実施しました。日本海沖で大きな地震が発生し、自治会単位で木山小へ避難するという想定です。

今年度は、新潟市防災士の会会長の平井孝志様を始め3名の講師の皆様をお招きしました。前半は「災害と防災について」と題して、近年、国内で発生した大きな地震の被災状況や防災に向けての「備え」など、ご自身の経験を交えながら具体的に教えていただきました。また、後半は、身近なものでできる防災グッズとして、親子で新聞紙を利用したスリッパ作りに挑戦しました。

ペットボトルの蓋を敷き詰めた床を、素足とスリッパとで歩き比べてみると、足を保護するものがいかに大切か実感できました。最後は、各クラスに分かれ、児童の引き渡し訓練を行い閉会となりました。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、大きな津波が比較的早い時間に押し寄せたにもかかわらず、被害者数は極めて少なかったそうです。それは、コミュニティを単位とした誘導が高台への速やかな避難を可能としたからだそうです。また、阪神・淡路大震災に比べて全半壊棟数当たりの死者数が少なかったのも、コミュニティの迅速な救助活動が有効に機能したためと言われています。

大規模な災害が発生した場合、行政や消防、警察、医療機関などいわゆる「公助」の機能には限界があります。また、道路や交通手段に大きな被害が出た場合、物資を運ぶ物流機能も著しく低下します。災害からの被害をできる限り少なく抑えるためには、平常時から、各家庭で自ら取り組む「自助」、地域の中で取り組む「共助」の訓練を実施し、大規模災害に備えることが必要になります。災害は忘れたころにやってくると言います。今回、校内の備蓄品置き場の様子をご覧いただきましたが、学校としても、いざというときへの「備え」を確実に行っていききたいと思います。



緊急地震速報を聞いて地震に備える訓練



新聞紙を使ったスリッパづくりに親子で挑戦



ペットボトルのキャップの上を歩いて履き心地を体感



木山小ブログ

日々、子どもたちの日常を情報発信しています。

URL : <https://blog.city-niigata.ed.jp/superkiyama/>

